

世界文化遺産

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録決定



- 1 「世界文化遺産登録決定」を祝い、くす球が割られる。
- 2 集まった関係者全員で記念撮影。
- 3 登録決定の瞬間を待つ、春日集落在住の皆さん。
- 4 生月町で伝承され、かくれキリシタン信者が唱えている「オラシヨ」の披露。

闇を突き抜け、
届け先人たちのもとへ。

ついに「世界の宝」へ
この宝を次世代に継承していく

6月30日午後5時50分、ついに歓喜の瞬間が訪れました。

中東のバーレーンで開催されていた「第42回ユネスコ世界遺産委員会」において、平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳・中江ノ島)を構成資産に含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が、正式に世界文化遺産として登録決定されました。

この日は、生月町博物館「島の館」で「第42回ユネスコ世界遺産委員会」の様子をパブリックビューイングでライブ配信。集まった多くの関係者は、固唾を飲んでその瞬間を待ちました。

登録決定の一報が流れると、会場では大きな歓声が起り、これまでの取り組みの苦労をたたえ、喜びを分かち合いました。

県および関係市町が世界遺産登録を目指す取り組みは、平成19年1月にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された時にさかのぼります。

県学術会議やイコモスからの指摘により、最大で29を数えた構成資産は、最終的に12資産となり、各市町とも苦渋の決断をしながら登録に至りました。

構成資産内で暮らす寺田一男さんは「やっと登録されたという気持ち。これをきっかけに、町の魅力を来訪者に知ってもらいたい」と登録決定の喜びを話してくれました。

「世界の宝」になった平戸市の構成資産を次世代に継承できるよう、今後も世界遺産や関連遺産の適切な活用と保全のあり方について、考えていかねばなりません。

世界遺産登録記念シンポジウムを開催

世界文化遺産登録を記念して「平戸の宝を未来へ」と題したシンポジウムを開催します。
この宝を今後どのように「つたえつなく」のか、文化観光の専門家や、先進自治体の担当者を招き、最新の動向を聞きながら、平戸市の未来を考えます。

- とき 8月26日(日) 午後2時～
(開場：午後1時30分、終了：午後4時45分)
 - ところ 平戸文化センター中ホール
 - 参加費 無料
- 園文化交流課文化遺産班 ☎内線2277

祝福の閃光

世界文化遺産登録決定を祝い、春日町丸尾山をライトアップ。青い閃光が夜空へと映し出され、幻想的な雰囲気を出す。

